

2017年9月22日

いすゞ 第45回東京モーターショー出品概要

いすゞ自動車株式会社(本社：東京都品川区、社長：片山正則、以下いすゞ)は、10月27日(金)から11月5日(日)まで東京都・東京ビッグサイトで開催される第45回東京モーターショーに、8台の車両(内、参考出品4台)、4基のパワートレインなどを出品します。

今回のモーターショーでは、

運ぶの時代に、できること。

をコンセプトワードとしました。

「運ぶ」ことへの存在感が増しているこの時代。全力で「運ぶ」を支え、社会とともに未来へと進んでいくために、創立80周年を迎えた私たちいすゞができること。

今日も世界中の「運ぶ」を支えているいすゞの商品や、「運ぶ」を止めないための稼働サポートの展示に加え、現在、近い将来、未来それぞれの時代の「運ぶ」へのご提案として、「ISUZU 6×6」、「エルフ EV」、「デザインコンセプト FD-SI」の参考出品モデルをご紹介します。

<出品概要>

1.デザインコンセプト FD-SI 【ワールドプレミア・参考出品】

未来の配送をコンセプトに、宅配ネットワークを新たな視点で見直し、ワクワクするような未来の「運ぶ」を表現しました。

昆虫などの生物に見られる群知能に着目し、集配方法に応用。エクステリアは蜂の巣をモチーフにしたバイオデザインを取り入れ、カーゴは強度とスペース効率のバランスに優れたハニカム構造、積荷も6角形の専用ボックスを重ねた荷姿に。キャabinはインパネ中央に操作機能を集約し格納式ステアリングを搭載。シートはセンターに配置し、よりスムーズなドライバー導線および快適な操作性と居住性を兼ね備えます。

2.ISUZU 6×6 【参考出品】

高い走破性で多様な目的に対応。過酷な環境にも屈することなく、あらゆる場面で「運ぶ」を支える「ISUZU 6×6」。

高走破性を確保するため、全軸シングルタイヤ、全軸駆動タイプの六輪駆動(6×6)を採用。

また、最低地上高、アプローチアングル、デパーチャーアングルは、一般車よりも高く設計しています。不整地走破性、軟弱地通過性、地形障害通過能力が高く、その踏破性能と登坂性能で、広域林野火災や豪雨による浸水など、大きな災害に対応可能です。

3.エルフ EV 【ワールドプレミア・参考出品】

いすゞ自動車が提案する EVトラック。

ゼロエミッションや低騒音など、環境・人にやさしいことはもちろん、商用車にとって大切な架装物も電気で動かします。

また、大容量バッテリーの搭載や次世代の急速充電技術等に対応することで、「働く車」として十分な性能を兼ね備えました。

これからの時代の「運ぶ」を支える、新しい商用車です。

4.ギガ いすゞ80周年記念モデル

ドライバーの相棒に。経営者の右腕に。大型トラック「ギガ」は、常に進化を続けています。

運行中の車両データを常時モニタリングし、安心稼働をサポート。さらに先進の安全装置と、地図情報を活用した新機能「Smart グライド+g」が、より高レベルな安全運行と省燃費走行に寄与します。

出品車両は、いすゞ自動車創立 80 周年記念モデルです。

5.フォワード いすゞ80周年記念モデル

燃費・環境・安全をハイレベルで追求した、中型トラック「フォワード」。平成 27 年度燃費基準+10%を達成し、ワンランク上の燃費性能を実現。また、先進安全装置の標準装備※で安全運行に貢献します。

出品車両は、いすゞ自動車創立 80 周年記念モデルです。

※GVW8t および 11t のカーゴ系主力車型。GVW7.5t/8t 車(190PS)除く。

6.エルフ いすゞ80周年記念モデル

小型トラック「エルフ」は、その優れた燃費性能で、2-3tトラック 16年連続販売台数 No.1※。

ドライバーの乗降性の向上を図ったキーレスライド、適切なドライビングポジションへ導くサスペンションシートを採用し、さらなる使いやすさを追求しました。出品車両は、いすゞ自動車創立 80 周年記念モデルです。

※2001年～2016年国内新車販売台数 自販連およびいすゞ調べ。

7.mu-X 〈海外生産・販売車両〉 【参考出品】

アジア・オセアニア・中近東・中米等で展開し、各国のニーズに応える PPV (パッセンジャーピックアップビークル)。

悪路走破性や耐久性に優れ、室内の広さも同クラスでは最大級です。オンとオフの用途を想定し、3tの牽引許容重量も備えます。

8.エルガ

排出ガス後処理装置を改善するとともにさらなる燃費向上を図った大型路線バス「エルガ」。LED ヘッドランプを採用し、夜間の視認性向上・長寿命化によるメンテナンスコスト削減を図りました。

バリアフリー・ユニバーサルデザインにより、優先席まわりの安全性確保や優れた乗降性に配慮しています。また新たに、運転席の足回りスペース拡大による乗務員の運転環境を改善しました。

9.いすゞディーゼルエンジン・トランスミッションシリーズ

・ディーゼルエンジン

(1)6UZ1-TCS

「ギガ」に搭載されている、平成 28 年排出ガス規制に適合した直列 6 気筒エンジン。

過給から冷却、燃料噴射にいたるまで、低燃費を追求。更にピストンをスチール化することで耐久性を向上させています。新開発の排出ガス後処理装置との組み合わせにより、低燃費でクリーンなディーゼルエンジンを実現しました。

(2)RZ4E-TC

いすゞが世界に誇る 1tピックアップ「D-MAX」と、派生車である PPV の「mu-X」に搭載されている最新のエンジン。

軽量・コンパクト化を追求した 1.9 リットルエンジンは、クラストップレベルの燃費性能を誇り、排気量当たりのパワーとトルクを可能な限り高めました。小排気量により、世界で最も厳しい欧州の排ガス規制(ユーロ 6)にも適合しており、環境にもやさしいエンジンです。

・トランスミッション

(3)MJX12 トランスミッション(スムーサーGx)

「ギガ」に搭載されている、スプリッター・レンジ機構による前進 12 段、後退 2 段の多段トランスミッション。

電子制御による自動変速「スムーサーGx」により、ドライバーの疲労を軽減します。エンジンとの協調制御を取り入れることで、変速時間の短縮、ドライブフィーリングの向上を実現しました。

また、一定の走行条件が整うとギヤをニュートラルにして惰行走行を行う Smart グライド機能や、クラッチハウジング内にバッフルを設け、オイルの攪拌抵抗を低減するなどの改良により燃費向上を実現しています。

(4)MVL6 トランスミッション

「D-MAX」と、派生車であるPPV「mu-X」に搭載されている新型6速マニュアル・トランスミッション。

これまでのギヤ比を進化させ、クラストップの低速域の走行性と高速域の省燃費を両立させました。更に軽量化を追求し、5速マニュアル・トランスミッション同等の重量を達成しました。

10.稼働サポート-高度純正整備「PREISM」/商用車テレマティクス

「MIMAMORI」

商用車テレマティクス「MIMAMORI」はデータ通信とインターネットを融合し、車両データを遠隔で解析する仕組みにより、運送事業者様のコンプライアンス遵守、安全、エコドライブ指導等に有益な様々なサービスを提供します。

また、車両コンディションデータも遠隔モニタリング。このデータを活用した、故障を未然に防ぐ高度純正整備「PREISM(プレイズム)」を2015年式の「ギガ」より提供開始。道の先にある未来を見据え、いすゞは車両の稼働を支えています。

【PREISM PRE：不調の発生する前 + ISM：いすゞの姿勢・考え方】

[第45回東京モーターショー出品物一覧](#)

※こちらからいすゞ東京モーターショーサイト2017をご覧ください。

